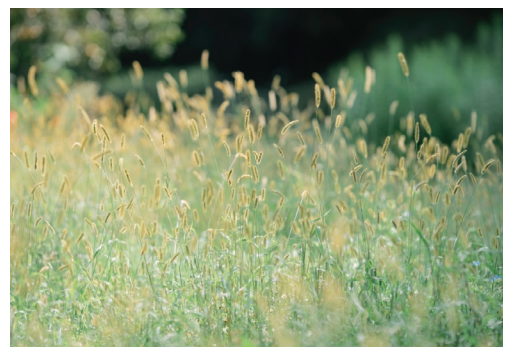




中山エリア

Nakayama area

「中山町」といえば、国道56号を内子に抜けるときに、たまに立ち寄る場所。私にとってはまだまだ未知の世界でした。「栗」と「そば」以外に何があるのか分からない。道の駅になった施設は「クラフトの里」だけど、どうしてクラフトなんだろう・・・？そう漠然と思いつつ、足を踏み入ると、みんなに教えたいような、教えるのがもったいないような、素敵な人やお店に次々と会うことができました。2019年度には、スマートインターチェンジも完成。アクセスしやすくなった中山町で、まだまだ隠れている魅力探しの旅に出かけてみよう。



Nakayama

Nakayama-chō is a town known for handmade goods like delicious baked treats, pottery, and woodwork. Visitors can enjoy meeting the creators and crafters, too.





Nakayama 04 **パン工房モンタナ**
ばんこうぼうもんたな

「ここは、いつ来てもお客でいっぱいよ！」地元の人がそう教えてくれた。毎日来てくれるお客さんにも楽しんでもらえるように、常に新作を出し続けているのだとか。「ちょっとでも気に入らないものは出さない。納得いくまでつくっている」というオーナー。中山のクラフト魂が、ここにも生きている。



Nakayama 03 **木遊舎**
もくゆうしゃ

木遊舎のテーマは「親子」。動物の親子の抱っこやおんぶをモチーフにした、木のおもちゃの愛らしさといったら! 丸いフォルムと、やさしい手ざわりに、思わず笑みがこぼれてしまう。使っている素材は、県内で生産された杉の間伐材。工房では、木製のおもちゃの販売のほか木工体験もできる。

Nakayama 01 **佐礼谷窯**
されだにがま

「何もないのが、かえてよかった」。中山が気に入って、30年前に佐礼谷地区に工房を構えたという清家さん夫婦。工房の雰囲気や、人柄からも漂ってくる、しんとした穏やかさ。「まわりにはいつでも植物があるし、秋にはトンボが入ってきます。描くものには困らないですよ」と、絵付け担当の奥さま。清家さんのつくろうつわは、自然そのもの。



Nakayama 02 **陶房Kibi**
とうぼうきび



田園風景の中にポツンと現れる陶芸工房のKibi。なぜ陶芸家になったのか尋ねると、小学校の職場体験で訪れた「佐礼谷窯」との出会いがきっかけだったそう。陶芸家・梶原さんは植物とコーヒーをこよなく愛する人。植物を眺めながら、自家焙煎したコーヒーを、自分で作ったうつわで飲むのが至福のひとつときなのだそうです。



Nakayama 06 **花の森ホテル**
はなのもりほてる

四季折々の景観が一望できるホテル。おすすめはリーズナブルなのに気軽な和洋会席が楽しめる「花の森ランチ」(当日予約もOKだけど、事前予約がオススメ)。一皿一皿が驚くほどうつくしく、美味しい。食事した後は、自由にお風呂に入れるのも魅力。栗の里公園やフラワーハウスなどがあり、1日のんびりできる。



Nakayama 05 **新岡製菓**
しんおかせいか

ガラガラと扉を開けると、なかには懐かしいお菓子やパンがいっぱい。お店の真ん中に置いてある大きなテーブルは、昔からおこづかいを握りしめてやってくる子どもたちの憩いの場だったよう。わたしも、こちらでシュークリームをひとつ。昔なつかしの、しっとりしたシューの味とやさしいクリーム。童心に返れるような味だった。



Nakayama 07 **宮野そば製粉製麺所**
みやのそばせいふんせいめんじょ

全国的にも数が少なくなり、貴重な「製粉製麺所」。そば粉、はったい粉、きな粉などのオリジナル商品のほか、「玄そば(そばの実)を作ったけん挽いて〜」と持ってくるお客さんもいるらしい。オススメは「青きな粉」。国産の青大豆を中心に、鉄鍋で丁寧に手炒りするから、甘く香ばしく、おはぎやあべかわ餅にぴったり。無添加にこだわっているから、安心安全。



甲 山の道の駅になった施設は、なぜクラフトの里なんですか?と地元の人に尋ねると「手づくりのものばかりやけんね」という答えが帰ってきた。クラフトの元々の意味は「技術」。そこから生まれる工芸品や民芸品のことを、まとめて「クラフト」というようだ。「クラフトビル」という言葉もあるけれど、それをひも解くと「小規模であること、独立してあること、伝統的であること」の3つが挙げられるそう、中山はまさにそんな町だと腑に落ちた。

山里の静かで集中できる雰囲気の中、黙々と自分の仕事をする人たち。それはうつわだったり、木製品だったり、食べ物だったり、それぞれだけど、今自分がやるべきこと、やりたいことを、正直にされている気がした。そのひたむきな気持ちは、そんな人たちから生み出されたものを受け取るだけで伝わってくる。そこには「誰かに喜んでほしい」という気持ちはあるだけで、「誰かを追い越したい」とか「ナンバーワンになりたい」といった、他人と比べる心はないような気がした。自分のペースで、夢中になれることを。そんな気持ちを持ちたいときは、中山に行こうと思った。



職人たちが住む「クラフト」のまち。

やるべき仕事を実直にコツコツと!

The tucked-away studios and shops were the kind of places I want to tell people about and yet, I also want to keep them a secret all to myself.